

令和7年度 校内研究報告書

小学部I教室、訪問
(II-C 課程)

I 研修内容

「II-C 課程の児童に対する自立活動の目標設定と連携の工夫」

本学級は小学部II-C 課程の重度重複障害を有する児童4名が在籍しており、教員3名で指導を行っている。痰の吸引など医療的ケアを頻回に必要とする児童もいるため、児童の学習ペースが異なり、担任教師と児童が一对一での学習が多く時間を占めている。そのため、担当児童以外の児童の実態把握の難しさや指導のアドバイスをを行うことの難しさを感じていた。II-C 課程の児童が、安心安全に学習を行うためには、専門的な知識と児童に関わる職員同士での連携や実態の共有が必要不可欠である。そこで、PT や自立活動専門の教員、e-AT コーディネーター等の専門家活用を通し、多くの先生方から指導に関するアドバイスを受け、その内容を動画や自活シートを活用し、学級教員だけでなく、児童に関わる職員と情報共有しながら、指導を進めていった。

今回は、主に小学1年生のM・Hさんについて報告する。M・Hさんは、今年度本校に入学してきた児童で人工呼吸器を使用しており、痰の吸引や胃瘻からの栄養注入など医療的ケアを頻回に必要としている。4月当初は、体のそり返りも強く、抱っこ時の首の角度の違いでサーチが下がってしまうこともあった。重度重複児を担当したことのない担任にとって、抱っこの仕方だけでなく、自立活動の組み立て方が大きな課題であった。看護師や自活専科、PT と連携しながら、児童の実態をその都度確認しながら、指導の工夫の改善に取り組んだ。

4月当初のM・Hさんは、吸引が頻回で、多い時には1日に20回以上吸引を行う日もあり、健康の保持のためには、出来る範囲内で体を動かし、自己排痰を促すための動きが必要であると考えた。自活専科や看護師と連携しながら、専門家活用研修で来ていただいた先生方から、ポジショニングの仕方や体の動かし方を教えてもらい、毎日、自立活動の時間に行った。また、スイッチ教材や視線入力教材について教えてもらいながら、学級の児童らが自ら周囲へ働きかけ、発信する力を高める方法を模索した。

学級会やTT会において、学級の児童全員の、自活シートや動画を活用し、自活専科や児童と関わる教員みんなで、情報共有を行い、指導の改善に努めた。

II 研究成果

M・Hさんに対する指導では、アドバイスをもらった体の動かし方を毎日、実践することができたことで、児童自身も力を抜くことが上手になり、苦手であった様々な姿勢にも長い時間取り組むことができるようになった。自分で咳をして排痰することも増え、年間を通して元気に登校することが多かった。

次に、視線入力教材の活用により、児童4名それぞれの見え方の特徴を知ることができた。教材の効果的な提示の仕方や、児童の新たな反応を知ることができ、継続して活用していきたい。

最後に、今年度の一番の成果は、学級教員同士のチームワークの良さを最大に生かした指導を行えたことである。放課後や授業中にも「この教材よく見ているね」「手を伸ばそうとしたね」など児童の様子を多く話し合っていたことで、授業中に担当教員が変わっても、安心して児童を任せることができた。学級で児童同士の関わり合う場面を多く設定することができたことも成果である。

Ⅲ 研究課題(今後の取組)

今年度、専門家活用研修が充実したことで、様々な視点で指導の改善を行うことができた。しかし、教えてもらったことを動画や自活シートを活用して TT 会で共有できるように工夫したが、マッサージでの力の入れ具合や姿勢保持器具の高さなど、微妙な加減を他の教員へ伝達することの難しさを感じた。視線入力教材では、設定に時間がかかってしまうことやエラーが出た時の対応方法が分からない、児童が 1 つのアプリができるようになった後、次にどの様なステップを踏み、次にどのようなアプリを使用した方が良いのか分か課題がある。また、継続した途切れない支援を行うために、教師の専門性の向上が必要である。